

っと冷たい感じがして、ピアノを弾いているときだけ開放的になる。

その日の放課後、セレナがぼんやりと教室の外の壁に凭れ掛かっていると、戻ってきたノラと目が合った。ノラは微笑んで頷き、手を振った。それを見たセレナは驚きの余り、体が固まり、狂いそうなほどの喜びを感じて会釈をした。ノラは教室に入ると、リュックに荷物を片づけながらエリカと話し始めた。

自惚れてはいけない！ノラのような優秀な人が私に興味を持つわけがないわ。ノラはクラスの中のもっと良い人と一緒にいるべきだ」

セレナは自分に言い聞かせた。